

令和元年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	豊かな心を育み生き方の自覚を促す12年道德教育の推進事業 －附属学校園の機能強化に資する園長専任化をめざす幼稚園経営開発－
事業実施代表者名	園長 川邊 淳子
実施附属学校名	附属旭川幼稚園
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>【事業内容】</p> <p>◆附属幼稚園としての特色ある保育</p> <p>①専任園長を中心とした長期ビジョンに基づいた園運営の準備 有識者会議において「早急に対応すべき」と記述のあった校 園長常勤化を、令和2年度から実施する運びとなった。これを受け て、既に専任園長化を実施している先進園の情報収集を行い、専 任園長による管理運営能力を生かし長期ビジョンに基づいた園運 営が可能となるように考慮し、準備を進めている。</p> <p>②附属幼小中の連携による12年教育の推進 附属学校園の立地と特色を生かし、これまでの取組を一步前進 させ、幼小の園児・児童による交流、小中の児童生徒による交流 に加え、幼小中の園児・児童・生徒が一体となる体験活動を新た に実施した。また、幼小中におけるカリキュラムマネジメントの 取組により、12年を見通した取組による成果を踏まえた教育活 動の一層の推進を図った。</p> <p>③園児一人一人の意欲を伸ばし非認知能力を育む保育実践 園児一人一人が「やってみたい」という思いを高めて豊かな活 動を展開するための環境構成を工夫する「マップ記録」の取組や、 園児の活動やその見取りを担当・副担任・支援員等で検証し共有 する「フォトカンファレンス」を定期的実施し、環境構成や保 育の共有・見直しを図った。</p> <p>◆在園保護者ニーズへの対応</p> <p>①預かり保育の充実 昨年度、期間限定で実施した45分間の延長保育を定例化した。 また、夏・冬休み中の預かり保育の開始時刻を通常の開始時刻と 合わせた9時からの実施とした。</p> <p>②子育て支援の充実 大学教員による、子どもの支援技法として有効な「ペアレント・ プログラム」を継続的に実施した。</p> <p>③PTA活動の精選・重点化 PTA活動が過度な負担とならないよう具体的な提案をして、 負担軽減を図った。</p> <p>◆大学と附属学校園の関係強化</p>

	<p>①大学教員との連携による研究や実践の向上 園の研究会議へ大学教員に参加していただき、研究の方向性や具体について忌憚のない御意見、御指導をいただく機会を設けた。</p> <p>②学生参加による保育の質向上 教育実習の他に、2年フィールド研究、1年体験実習などで幼児教育の学生が保育に関わった。他にも、預かり保育で人数が多い時の補助人員として、あるいは4年生による読み聞かせや劇などの出し物、音楽学生によるコンサートなどで子どもたちと関わる機会を設けた。</p>
<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>先進園への情報提供に基づき、園長専任化によって管理運営能力を生かし長期ビジョンに基づいた園運営につなげる準備を進めることができた。また、幼小中の園児・児童・生徒が一体となる活動を新たに企画・実施することで、人との関わりや相手の気持ちを考えた行動などの成果が得られた。</p> <p>幼小中におけるカリキュラムマネジメントの取組により、12年を見通した取組の成果を踏まえた教育活動の推進につなげることができた。園の環境構成を工夫する「マップ記録」の取組や、園児の活動やその見取りを担当・副担任・支援員等で検証し共有する「フォトカンファレンス」を定期的な実施により、環境構成や保育の共有・見直しに役立てることができた。</p> <p>預かり保育では、17時45分までの延長の定例化と、夏・冬休み中の預かり保育の開始時刻を通常保育と同じ9時開始など、保護者のニーズに応えることができた。子育て支援の充実として「ペアレント・プログラム」実施により、子育てに行かすことができたという具体的な反応が寄せられるなど成果を見ることができた。</p> <p>P T A活動の精選・重点化を推進することで、活動の質を落とさずに保護者の負担軽減につなげる流れを作ることができた。</p> <p>課題としては、カリキュラムマネジメントの推進による地域連携の一層の強化、幼稚園教育において育まれた資質・能力の幼小連携による共有化、教育活動による成果の効果的な発信の工夫、子育て支援など保護者のニーズに対応していく取組の更なる推進が挙げられる。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>カリキュラムマネジメントの推進については、今後地域の人たちとの交流機会の設定を含め、よりよい活動の掘り起こしにより一層の成長につなげることが考えられる。</p> <p>幼稚園教育において育まれた資質・能力の幼小連携による共有化に関しては、校種間の違いによる教育観の共有化を促すため、相互の学校園参観の定例化やフォトカンファレンスなど相互参加の研修会の実施といった取組が考えられる。</p>

	<p>教育活動による成果の効果的な発信の工夫について、本園における教育活動の成果が一層効果的に保護者や地域に伝わるような方法を見直していく。</p> <p>子育て支援については、核家族や共働きなど時代の変化やニーズに対応していくことが園の存続にとって欠かせないことであり、子育て相談の効果的運用やペアレントプログラムの推進、預かり保育ではの充実など取組の更なる推進が挙げられる。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>特になし</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。